

2 検査と診断の流れ

ご自身が肝炎ウイルスに感染しているかどうかを確認するための肝炎ウイルス検査と実際の肝臓の状態を知るための検査についてご紹介します。

(1) 肝炎ウイルス検査の受診について

肝炎ウイルスに感染しているかどうかは、血液検査（少量の採血）で判明し、検査結果についても、概ね数日でわかります。



まだ検査を受けたことがない方や、過去に輸血をしたことがある方は一度検査を受けてみましょう。

山口県では、ア：県と委託契約を締結した医療機関やイ：健康福祉センターにおいてB型及びC型肝炎ウイルス検査を無料で実施しています。

ア：医療機関における無料の肝炎ウイルス検査

対象者：過去に肝炎ウイルス検査を受けたことがない方

実施場所：県内の届出医療機関（下関市は別途実施しています。）

※検査が受けられる医療機関については、山口県ホームページ及びもよりの健康福祉センターでご確認ください。

(<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a15200/kansensyou/kanenkensa.html>)

イ：健康福祉センターにおける無料の肝炎ウイルス検査

対象者：過去に肝炎ウイルス検査を受けたことがない方

実施場所：健康福祉センター（保健所）

※検査は予約制ですので、事前に健康福祉センターにお問い合わせください。

詳しくは下記、山口県ホームページをご覧ください。

(<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a15200/kansensyou/kanentaisaku.html>)

なお、県内の市町においても、健康増進法に基づく肝炎ウイルス検査を実施しています。

詳しくは、お住まいの市町担当窓口へお問い合わせください。

※検査で精密検査が必要となった場合には、精密検査実施医療機関（P19肝疾患専門医療機関）を受診し、さらに詳しい検査（有料）を行います。

① B型肝炎ウイルス検査について

B型肝炎ウイルス（HBV）の血中ウイルス量を調べることで、抗ウイルス療法の効果を予測し、より適切な治療法を選択する基準となります。

| 抗 原 | | 抗 体 | |
|---------------------|--|-------|--|
| HBs抗原 | 陽性の場合には、現在HBVに感染しています。 | HBs抗体 | 陽性の場合には、過去にHBVに感染したが治癒しており、HBVに対する免疫ができています。 |
| HBe抗原 | 陽性の場合には、HBVが活発に増殖している状態で、感染力が強いです。 | HBe抗体 | 陽性の場合には、HBVの増殖が落ち着いている状態で、感染力が弱いです。 |
| HBV遺伝子 (HBV-DNA) | 血液中のHBVの量を示し、ウイルス増殖の指標となります。抗ウイルス療法の必要性の有無や治療判定効果の際にも重要です。 | | |
| HBV ジェノタイプ | HBVの遺伝子型で、日本ではジェノタイプCとBがほとんどです。B型肝炎の自然経過や治療効果と関係があります。なお、最近ではジェノタイプAによる急性肝炎が増加しています。 | | |

② C型肝炎ウイルス検査について

C型肝炎ウイルス（HCV）の遺伝子型や血中ウイルスの量を調べることで、抗ウイルス療法の効果を予測し、より適切な治療法を選択する基準となります。

| | | | |
|---------------------|--|--|--|
| HCV抗体 | 陽性の場合には、HCVに感染している可能性があります。 | | |
| HCV遺伝子 (HCV-RNA) | HCVがもつ遺伝子(RNA)を調べることで体の中にウイルスがどうか、いる場合にはどれくらいのウイルスの量かがわかります。 | | |
| HCV遺伝子型 | HCVの遺伝子には、いくつかの遺伝子型（ジェノタイプ）があり、日本では1型（1b型）と2型（2a型、2b型）がほとんどです。治療法の選択や治療効果の予測に有用です。 | | |

(2) 肝臓の状態を知るための検査について

肝臓の状態を知る検査として、①血液生化学検査(「AST (GOT)」、
「ALT (GPT)」、「 γ (ガンマ)-GTP」、「血小板数」などを測る)や②画像診断検査(超
音波検査、CT 検査、MRI検査)や③肝生検等があり、医療機関で受診できます。

検査によっては、検査薬剤の使用により副作用を生じるものもあるため、主
治医とよく相談して実施することとなっています。

① 血液生化学検査

AST (GOT) 、 ALT (GPT)

人体の重要な構成要素であるアミノ酸をつくる働きをしています。

肝臓の細胞に多く含まれている酵素で、血液中にも常に一定量が出ていますが、肝
炎などの炎症が起こり、いつもよりたくさんの肝臓の細胞が壊れると、通常よりた
くさんの量のAST、ALTが血液中に漏れ出して、血液検査で高値を示します。

γ (ガンマ) -GTP (γ -GT)

AST、ALTと同様にタンパク質を分解する酵素の一つです。

アルコールを習慣的に飲んでいる方は高い値を示すことでよ
く知られている酵素で、胆汁の流れに障害があるときに上がる
こともあります。



血小板数

血液の凝固に関する成分です。

肝臓の線維化が進むにつれて、血小板数は減少していき、肝生検をしなくても血
小板数で線維化の状態がある程度わかります。また、インターフェロン治療の副作
用として一時的に減少する場合があります。

AST、ALTの値により肝臓の炎症の程度がわかりますが、血小板数では、「どの
程度病気が進んでいるのか」、「どのくらい肝硬変に近いのか」ということがある程
度推察できます。

② 画像診断検査

超音波(腹部エコー)検査

超音波により、肝臓の中まで観察することができます。慢性肝炎か否かの判断あるいは慢性肝炎と脂肪肝を区別するのに有用な検査です。また、肝がんの診断にも有用です。

【検査方法】

腹部にゼリーを塗り、皮膚にプローブと呼ばれる接触子を押し当て、画像をモニターテレビで観察します。

CT (コンピュータ断層撮影) 検査

X線とコンピュータを組み合わせた装置で、身体を輪切りにした詳しい画像が得られ、肝がんの診断にも有用です。

【検査方法】

検査台に仰向けに寝た状態で、筒の中をスライドして撮影を行います。



MRI (磁気共鳴画像) 検査

強力な磁場と電波を利用して体の内部を縦、横、斜め、あらゆる方向から撮影することができます。

【検査方法】

CT検査と同様に仰向けに寝た状態で、強力な磁気でできた筒の中をスライドして撮影を行います。

③ 肝生検

肝生検

血液検査や超音波検査、CT検査とは違い、肝組織を直接目で観察できるので、最も確実な検査方法の一つとされています。そのため、慢性肝炎や肝硬変の確定診断に広く用いられています。

【検査方法】

肝臓に針を刺して組織や細胞を採取し、顕微鏡で細かく観察する検査です。他の検査と異なり身体への負担もあることから、すべての患者さんに実施できるわけではありません。